

氏名（本籍）	ふう ほ FENG FAN（中華人民共和国）
学位の種類	博士（芸術）
学位記番号	甲第164号
学位授与年月日	2026年3月23日
学位授与の要件	広島市立大学大学院学則第36条第2項及び広島市立大学学位規程第3条第2項の規定による
学位論文題目	「漢代漆紗冠の復元研究及び漆紗ジュエリーへの応用研究」
論文審査委員	主査 教授 大塚 智嗣 委員 准教授 内堀 豪 委員 准教授 石松 紀子

論文内容の要旨

研究背景と問題意識

漆と絹を組み合わせてつくられる「漆紗」は、中国古代の工芸史の中でもきわめて独自の存在であり、春秋戦国期に貴族の冠として用いられて以来、長いあいだ身分と権威の象徴として重んじられてきた。しかし、その高度な技術は材料の希少性や工程の複雑さゆえに清代を境に失われ、約三百年ものあいだ途絶えたままとなっている。近年、考古学や材料科学の進展により出土品の分析は進んでいるが、研究の多くは文化財修復や歴史研究の範囲にとどまり、現代の創作や表現へとつながる実践的な展開はほとんど見られない。この現状は、伝統工芸の継承が途切れたままであるだけでなく、工芸がもつ本来の創造的な可能性を狭めているといえる。

研究目的と意義

本研究の目的は、失われた漆紗冠の制作技法を実証的に復元し、その技術を現代のジュエリー創作へと応用することで、伝統工芸の継承と再生を図ることである。過去の技術を単に再現するのではなく、現代社会の文化的・美的な文脈の中に再び息づかせ、新たな表現手段として位置づけ直すことに本研究の独自性がある。古代の技術と現代の表現をつなぐこの試みは、工芸を「遺産」として保存するだけでなく、「今を生きる技術」として再解釈し、工芸の未来を切り開く可能性を探るものである。

研究方法とプロセス

本研究は四つの段階で進められた。第一に、文献資料や出土物、先行研究を精査し、漆紗冠の歴史的背景や文化的意義、技術的特徴を整理した。第二に、出土資料の分析結果をもとに、漆糸の制作・撚糸・塗漆工程・編み技法・端処理などを再現実験を通して検証し、技法の体系化を試みた。この過程では、制作効率と品質の安定性を向上させるため、独自に「第二世代漆糸製造機」を設計・試作し、手作業の課題に対処した。第三に、制作の過程で直面した問題を「手から考える」という実践的視点から省察し、技術の断絶や再構築の意味を考察した。第四に、復元した技法を用いてジュエリー作品を制作し、素材特性と造形表現の関係性、技法が導く美意識や形式の展開について分析した。

研究成果と知見

本研究によって、約三百年間失われていた漆紗冠の技法が復元され、その構造・素材・制作手順が具体的に明らかとなった。特に、漆塗布の順序に「先編後漆」と「先漆後編」という二つの系統が存在すること、0.15mm前後の極細絹糸が漆紗特有の軽やかさや柔軟性、透過性を

生み出していること、さらに端部処理の方法には地域的な差異があることなど、多くの新知見が得られた。また、復元技法を応用したジュエリー作品では、素材のもつ軽やかさや空間性が生かされ、従来の金属や宝石にはない新たな身体感覚と表現の可能性が示された。これらの成果は、漆紗が現代の表現素材としても十分なポテンシャルを持つことを実証している。

学術的意義と結論

本研究は、失われた技法の復元という課題に対して、考古学的・技術的分析と創作実践を往還させることで、工芸研究の新たな方向性を提示した。技術を単なる過去の遺産として扱うのではなく、現代の表現や社会の中で再び意味あるものとして立ち上げるという視点は、工芸研究に新たな地平を開くものである。さらに、本研究の知見と成果は文化財修復や素材開発、現代デザインなどへの応用可能性をも有しており、伝統と現代をつなぐ学際的な試みとして意義を持つ。漆紗冠という一つの技法の再生を通して、工芸が未来に向けてどのような役割を果たし得るかを問い直すこと、それこそが本研究の本質である。

論文審査の結果の要旨

申請者は中国漢代漆紗冠の表現技法に着目した研究を博士前期より行なっている。博士後期より、歴史的背景や技術的特徴を考察しながら空間を意識した現代的な造形表現を研究してきた。その後、糸の種類や漆の浸透方など素材の組み合わせによる技術探究と共に、独自の漆紗塗り装置の改良を重ね特許申請もしている。また、漢代漆紗冠の復元制作を実践することで(図1)、構造的な問題を模索しながら、編む行為に注視した独自の表現技法を見出した。さらに論文において貴族文化における漆紗冠の役割や価値を再認識することで、本来あるべき身に纏う機能性と、漆紗特有の繊細で軽く柔軟性のある特徴を活かした「漆紗ジュエリー」へと漆紗の価値を引き出す造形へと展開した。この研究成果は多くの提出作品に見受けられ、中でも提出作品「ブローチ赤」(図2)は、紗の形状を留め具の位置によりフレキシブルに可変可能で、漆の強度性や装飾性も活かした表現となっている。また「ネックレス赤」(図3)はガラスを組み込むことで、紗の繊細さをより可視化でき、さまざまな表現が期待できる作品である。以上、論文を含めた漆紗における多角的な調査と実験から生み出された作品群は独創性や完成度、可能性において高く評価できると判断し、本申請における総合審査結果を合格とした。